
屍になりたい女

天城

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

屍になりたい女

【Nコード】

N7246B

【作者名】

天城

【あらすじ】

私も回りも「いろんな人」の中に入っている。だけど、私は……

（前書き）

基本的に著作権は私、作者の天城にあります。

世の中には、いろんな人間がいる。

殺す人。殺される人。超能力を持つ人。歌が誰よりも上手い人。

私も、周りも、その「いろんな」の中に入っている。

だが、私くらいではないか？『殺されたい』と思う者は。

それは、後悔や苦しみからの願望ではなく、欲望に近かった。

目覚めたのは、中学生の頃。マフラーをしている時に、男友達にふざけて首を絞められたのが始まりだ。

苦しみの中で、妙な快感があった。

昔から美しい手を好むのは、その手によって殺されたかったことの現れなのかもしれない。

できれば、男性の長くて引き締まった手に殺されたい。

首を絞められる、刃物で刺される、水に顔を押し当てられる……

手を最大限に使うことなら、どんな状態も好ましかった。

成人したある日、私は街を歩いていた。

隣にいるのは、恋人。美しい容姿の男性だった。

そして、なにより手が好ましい……大きく、少し骨ばった、やや白い手。

この手によって殺されたら、どんな快感を得られるのか、見るたびに胸が高鳴った。

私は、どうしても我慢できなくなった。

そして、わざと彼が怒ることをしてやったのだ。もちろん、彼は激怒した。

”許さない”そう、私を罵った。

すぐに私はベッドに押し倒され、あの手で首を絞められたのだ。

その世界は、不思議だった。

中学生の頃に体験した苦しみよりも、もっと苦しく、もっと良かった。

痺れてくる脳…まるで、麻薬のような快感だ。これこそ、私が求めていたものだ。

なによりも、愛する男、愛する手によってされることに意味があった。

本当に、私は彼を愛し、彼も私を愛してくれたのだ。

それを思うと…少し、良心が痛んだ。自分の欲望のため、愛する彼を殺人鬼にすることを……

だが、その想いより欲求が勝ったために、今こうなっている。

私は、絞めている彼の大きな手を残った僅かな手の力で握った。

ありがとう

聞こえないかもしれないが、口をパクパクさせ、そう言った。

彼の美しい顔が悲しそうに見える…微かに、私の顔に涙が落ちた。

彼は知っていたのだ。私が、そういうことを好む変人だということを。

それをわかった上で、異常に怒った演技をしてくれたのだ。

私は、少し前に彼に手紙を渡した。私がいなくなったら見て、と…

『大好きだったよ。私の体は、どこかに捨ててね。できれば、永遠

に誰にもバレないところがいい。そして、あなたがこのまま何事もなかったように生きれるようにいて欲しい。勝手にごめんね。最後に…殺してくれて、ありがとう』

手紙には、そう書いておいた。

彼には、本当に感謝をしている。

どうか、来世でも私を殺して欲しいと思った。

（後書き）

この話は、ふざけてマフラーで首を絞められた際に思いついた話です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7246b/>

屍になりたい女

2011年1月15日20時28分発行